

#吉岡進の新世代沖釣り紀行vol.17 ツリガチ!

撮影/文◎本誌編集部

★テールスピニングをキャストして早巻きでイナダをキャッチ

おのれもなかなかな

どうだ……

ルアーをチェックしてサワラのかみ跡を探すヨッシー

東京湾のルアー青物

Profile ◆よしおか すずむ 1982年生まれ。ヨッシーの愛称で親しまれている。一つテンヤマダイ、ライト系オフショアルアーを得意とする。ジャッカルソルトプロスタッフ、シーガーインストラクター。



▲当日の釣り場は横浜～富津沖の水深15～30メートル前後

★開始早々、ブレード付きジグの早巻きで5キロのサワラを上げた山口さん

★3.5キロと2.6キロのサワラを釣り上げた中村さん。ヒットルアーはいずれも40グラムのブレード付きジグ



▲テールスピニングの早巻きで食べてきた
◀釣友と仲よくダブルヒット



▲イナダのアベレージは40～45センチ前後
◀丸まるととったイナダも釣れた



▲巻きスピードが遅いとタチウオが食ってくることも



◆本編(62ページより)は高橋剛が執筆。沖釣りの楽しさをヨッシーとともに伝えします!

ヨッシーこと吉岡進がエサ、ルアー釣りを問わず、様々な釣り物にガチでチャレンジしていく連載「ツリガチ!」。第17回は東京湾のルアー青物。キャストイングでサワラを主体にイナダやタチウオなどが釣れており、出船軒数も増えている人気の釣りである。9月下旬に釣行したのは東京湾奥横浜の渡辺釣船店。当宿のルアー青物乗

運要素が大きいのがサワラ。こればかりは、投げた巻き続けるしかないよね……

合はキャストイングをメインに状況によりジギングでワラサを狙うスタイルで出船。金子大士船長が向かったのは、ベイト(小型のカタクチイワシなど)の反応が多く見られる横浜、富津沖の水深15、30メートル前後。

◎アタるまでキャスト&リトリブを繰り返す



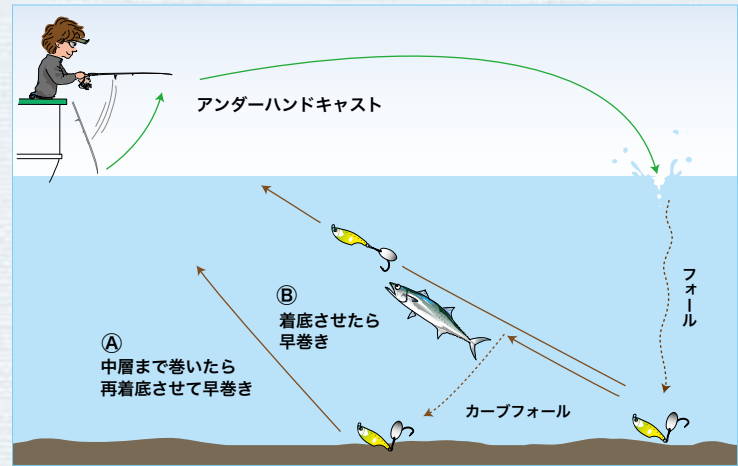
◀釣り上げたサワラが吐き出した6～7.5センチほどのカタクチイワシ。ベイトのサイズにルアーを合わせるのも有効

ドテラ流しのサワラの釣り方

●ドテラ流しでは、正面から風が当たる側とその反対側で釣り方が少し異なる。正面から風が当たる場合は、ルアーを底まで沈めている間、道糸がどんどん出ていくので、探れる範囲が広い。そのため着底したら早巻きで中層まで探り、再着底させて早巻きする(図内A)。風を背に受ける側は、できるだけジグを遠くにキャスト、着底したら海面まで早巻きする(図内B)。



●早巻きの目安は全速でルアーを回収するくらい



ハッパハッパと早巻きは、この瞬間は



★初めてサワラを釣り上げて大満足の池澤さん。ヒットルアーは40グラムのテールスピニング

▲タチウオは終日活性が高くよく釣れた

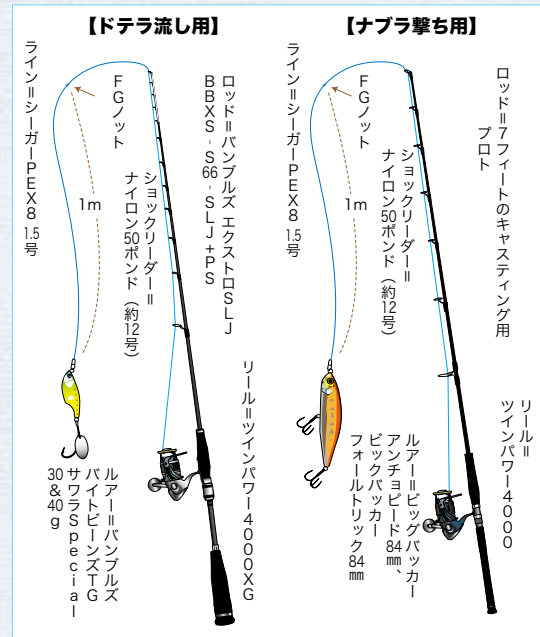
▲テールスピニングの早巻きで次々とタチウオがヒット

▶タチウオのアベレージは指幅4本級



●サワラはバレることが多いので取り込みまで気が抜けない

東京湾のルアー青物タックル



▲ナブラ撃ちではヘビウエイトのシンキンググミノーやシンキングペンシルが活躍する



▲ドテラ流しは遠投して広く探るため飛距離の出るテールスピニングの出番。ルアーはバンプルス バイトビーンズ TG サワラ Special30&40グラム

#船宿インフォメーション

東京湾奥 横浜 渡辺釣船店

☎045-622-8381

(詳細は巻末の情報欄参照)

- 料金=ルアー青物乗合一人1万円
- 備考=予約乗合、7時出船。ルアータチウオ、ライトアジへも出船



▲宿で受付をして奥へ進むと船着き場がある
▲金子 大士船長(左)



トリヤマがあったりサワラが跳ねていけばナブラ撃ちでエキサイティングな釣りが楽しめるのだが、この日はサワラの群れが沈んでいたため、魚探に映るベイトの反応を探してドテラ流しで広く探っていく。

1流し目、45グラムのブレイド付きジグを早巻きしていた右側の間の方が5キロのサワラを釣り上げて幸先のいいスタートを切る。
今回はテールスピニング「バンプルス バイトビーンズ TG サワラ Special」という新たな武器を手にキャスト&リトリップを繰り返して、タチウオやイナダを釣り上げるヨッシー。果たしてサワラを釣り上げる事ができたのか? 詳しくは62ページからの本編にて!



▲トリヤマ発見でチャンス到来、船を寄せて狙った